

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験場所の区分
1 セメント・コンクリート（転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く）	施工	必須	スランブ試験	JIS A 1101	スランブ5cm以上8cm未満：許容差±1.5cm スランブ8cm以上18cm以下：許容差±2.5cm（コンクリート舗装の場合） スランブ2.5cm：許容値±1.0cm （道路橋床版の場合） スランブ8cmを標準とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1回／日、および荷卸し時に品質変化が認められた時に行う。</li> <li>ただし、道路橋鉄筋コンクリート床版にレディーミストコンクリートを用いる場合は、原則として全車測定を行う。</li> <li>道路橋鉄筋コンクリート床版の場合、全車試験を行うが、スランブ試験の結果が安定し良好な場合は、その後のスランブ試験の頻度について低減することができる。</li> <li>小型構造物については、総使用量50m3につき1回の割合で行う（50m3未満のものは1回以上）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小型構造物で総使用量が50m3未満の場合は、レディーミストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。</li> <li>試験頻度の低減方法 ①連続で10台のスランブ試験を実施して、個々の測定値が許容値の60%の範囲内、かつ10個の測定値の平均値が許容値の50%の範囲内に入れば「安定し良好」と判断する。</li> <li>②その後、5台毎にスランブ試験を実施する。</li> <li>③その測定値が許容値の60%の範囲を外れた時点で、再度連続でスランブ試験を行い、5台連続で個々の測定値が許容値の60%の範囲内に入れば、手順②に戻る。</li> <li>ただし、①により低減できるのは、その打設日のみであり、翌日以降は同じ手順を繰り返す。</li> </ul>	イ
			コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1108	<ul style="list-style-type: none"> <li>1回の試験結果は指定した呼び強度の85%以上であること。</li> <li>3回の試験結果の平均値は、指定した呼び強度以上であること。</li> <li>（1回の試験結果は、3個の供試体の試験値の平均値）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1回／日、および荷卸し時に品質変化が認められた時に行う。</li> <li>小型構造物については、総使用量50m3につき1回の割合で行う（50m3未満のものは1回以上）。</li> <li>テストピースは打設現場で採取し、1回につき6本（<math>\sigma</math>7-3本、<math>\sigma</math>28-3本）とする。</li> <li>早強セメントを使用する場合には、必要に応じて1回につき3本（<math>\sigma</math>3）を採取する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小型構造物で総使用量が50m3未満の場合は、レディーミストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。</li> </ul>	ウ $\sigma$ 28の30%以上センターで行う。
			コンクリートの曲げ強度試験	JIS A 1106	<ul style="list-style-type: none"> <li>1回の試験結果は指定した呼び強度の85%以上であること。</li> <li>3回の試験結果の平均値は、指定した呼び強度以上であること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンクリート舗装の場合に適用し、2回／日（午前1回・午後1回）の割合で行う。なおテストピースは打設現場で採取し、1回につき原則として3個（<math>\sigma</math>28）とする。</li> <li>小型構造物については、総使用量50m3につき1回の割合で行う（50m3未満のものは1回以上）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンクリート舗装の場合に適用する。</li> <li>小型構造物で総使用量が50m3未満の場合は、レディーミストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。</li> </ul>	ウ 30%以上センターで行う。
			空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	±1.5%（許容差）	<ul style="list-style-type: none"> <li>1回／日、および荷卸し時に品質変化が認められた時に行う。</li> <li>小型構造物については、総使用量50m3につき1回の割合で行う（50m3未満のものは1回以上）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小型構造物で総使用量が50m3未満の場合は、レディーミストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。</li> </ul>	イ
			その他	コアによる強度試験	JIS A 1107	設計図書による。	<ul style="list-style-type: none"> <li>品質に異常が認められた場合に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コア採取は監督員が立合い、封印もしくは検印を行う。</li> </ul>

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験場所の区分
8 アスファルト舗装(歩道、簡易舗装を含む)	材料	その他	密度試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト:表3.3.1 ・ポリマー改質アスファルト:表3.3.3 ・セミプローンアスファルト:表3.3.4	施工前及び材料変更時		ウ
			高温動粘度試験	舗装調査・試験法便覧[2]-180	舗装施工便覧参照 ・セミプローンアスファルト:表3.3.4	施工前及び材料変更時		ウ
			60℃粘度試験	舗装調査・試験法便覧[2]-192	舗装施工便覧参照 ・セミプローンアスファルト:表3.3.4	施工前及び材料変更時		ウ
			タフネス・テナシティ試験	舗装調査・試験法便覧[2]-244	舗装施工便覧参照 ・ポリマー改質アスファルト:表3.3.3	施工前及び材料変更時		ウ
	プラント	必須	粒度(2.36mmフルイ)	舗装調査・試験法便覧[2]-14	(抽出・ふるい分け試験の場合) 2.36mmふるい:±12%以内基準粒度	印字記録、または抽出・ふるい分け試験を行う。 (印字記録の場合):全数 (抽出・ふるい分け試験):1回/日		ウ
			粒度(75μmフルイ)	舗装調査・試験法便覧[2]-14	(抽出・ふるい分け試験の場合) 75μmふるい:±5%以内基準粒度	印字記録、または抽出・ふるい分け試験を行う。 (印字記録の場合):全数 (抽出・ふるい分け試験):1回/日		ウ
			アスファルト量抽出粒度分析試験	舗装調査・試験法便覧[2]-238	(抽出・ふるい分け試験の場合) アスファルト量 ±0.9%以内	印字記録、または抽出・ふるい分け試験を行う。 (印字記録の場合):全数 (抽出・ふるい分け試験):1回/日		ウ
			温度測定(アスファルト・骨材・混合物)	温度計による。	配合設計で決定した混合温度	随時		ウ
	舗設現場	必須	現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧[3]-91	基準密度の94%以上 X10 96%以上 X6 96%以上 X3 96.5%以上	・締固め度は、個々の測定値が基準密度の94%を下回ってはならない。 ・また、10個の測定値の平均値X10が規格値を満足しなければならぬ。なお、10個の測定値が得がたい場合は3個の測定値の平均値X3が規格値を満足していなければならないが、X3が規格値をはずれた場合は、さらに3個のデータを加えた平均値X6が規格値を満足していればよい。 ・1,000㎡につき1個(=1孔)の割合で行う。ただし、3,000㎡未満の工事は1工事につき3個以上とする。	・橋面舗装はコア採取しないで、As合材量(プラント出荷数量)と舗設面積及び厚さでの密度管理、または転圧回数による管理を行う。	ウ 30%以上センサーで行う

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験場所の区分
8 アスファルト舗装(歩道、簡易舗装を含む)	舗設現場	必須	現場密度の測定(歩道の場合)	舗装調査・試験法便覧[3]-91	基準密度の90%以上	・縮固め度は、個々の測定値が基準密度の90%を下回ってはならない。 ・500㎡につき1個(=1孔)の割合で行う。ただし、1,500㎡未満の工事は1工事当たり3個以上とする。		ウ 30%以上センターで行う
			現場密度の測定(簡易舗装の場合)	舗装調査・試験法便覧[3]-91	基準密度の94%以上	・縮固め度は、個々の測定値が基準密度の94%を下回ってはならない。 ・1,000㎡につき1個(=1孔)の割合で行う。ただし、3,000㎡未満の工事は1工事当たり3個以上とする。		ウ 30%以上センターで行う
			温度測定(初期縮固め前)	温度計による。	110℃以上	随時	測定値の記録は、1日4回(午前・午後各2回)。	イ
		その他	すべり抵抗試験	舗装調査・試験法便覧[1]-84	設計図書による	舗設車線毎200m毎に1回		イ
		外観検査(混合物)	目視		随時		イ	
9 転圧コンクリート	材料(JISマーク表示されたレディーミクストコンクリートを使用する場合は除く)	必須	コンシステンシーVC試験		舗装施工便覧8-3-3による。 目標値 修正VC値:50秒	当初		ウ
			マーシャル突き固め試験	転圧コンクリート舗装技術指針(案) ※いずれか1方法	舗装施工便覧8-3-3による。 目標値 縮固め率:96%	当初		ウ
			ランマー突き固め試験		舗装施工便覧8-3-3による。 目標値 縮固め率:97%	当初		ウ
		含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。	当初	・含水比は、品質管理試験としてコンシステンシー試験がやむえざ行えない場合に適用する。 ・なお、測定方法は試験の迅速性から直火法によるのが望ましい。	ウ	
		コンクリートの曲げ強度試験	JIS A 1106	設計図書による。	2回/日(午前・午後)で、3本1組/回。		1回以上センターで行う	
		その他	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	舗装施工便覧 細骨材表-3.3.20 粗骨材表-3.3.20	細骨材300m3、粗骨材500m3ごとに1回、あるいは1回/日。		1回以上センターで行う
		骨材の単位容積質量試験	JIS A 1104	設計図書による。	細骨材300m3、粗骨材500m3ごとに1回、あるいは1回/日。		1回以上センターで行う	
		骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110	設計図書による。	施工前及び材料変更時		1回以上センターで行う	
粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121	35%以下 積雪寒冷地25%以下	施工前及び材料変更時	ホワイトベースに使用する場合:40%以下	1回以上センターで行う			

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験場所の区分
13 固結工	施工	必須	土の一軸圧縮試験	JIS A 1216	①各供試体の試験結果は改良地盤設計強度の85%以上 ②1回の試験結果は改良地盤設計強度以上 なお、1回の試験とは3個の供試体の試験値の平均値で表したものを。	・改良体500本未満は3本、500本以上は250本増えるごとに1本追加する。試験は1本の改良体について、上、中、下それぞれ1回、計3回とする。 ・ただし、1本の改良体で設計強度を変えている場合は、各設計強度毎に3回とする。 ・現場の条件、規模等により上記によりがたい場合は監督員の指示による。		エ センターで行う
14 アンカー工	施工	必須	モルタルの圧縮強度試験	JIS A 1108	設計図書による。	2回(午前・午後)/日		ウ 30%以上センターで行う
			モルタルのフロー値試験	JIS R 5201	設計図書による。	・練りませ開始前に試験は2回行い、その平均値をフロー値とする。		イ
			多サイクル確認試験	グラウンドアンカー設計・施工基準、同解説(JGS4101-2000)	・設計アンカー力に対して十分に安全であること。	・施工数量の5%かつ3本以上。 ・初期荷重は計画最大荷重の約0.1倍とし、引き抜き試験に準じた方法で載荷と除荷を繰り返す。	・ただし、モルタルの必要強度の確認後に実施すること。	イ
			1サイクル確認試験	グラウンドアンカー設計・施工基準、同解説(JGS4101-2000)	・設計アンカー力に対して十分に安全であること。	・多サイクル確認試験に用いたアンカーを除く全本数 ・初期荷重は、計画最大試験荷重の約0.1倍とし、計画最大試験荷重まで載荷した後、初期荷重まで徐荷する1サイクル方式とする。	・ただし、モルタルの必要強度の確認後に実施すること。	イ
			その他	グラウンドアンカー設計・施工基準、同解説(JGS4101-2000)	・所定の緊張力が導入されていること。		・定着時緊張力確認試験 ・残存引張力確認試験 ・リフトオンテスト等があり、多サイクル確認試験、1サイクル確認試験の試験結果をもとに、監督員と協議し行う必要性の有無を判断する。	イ
15 補強土壁工	材料	必須	土の締固め試験	JIS A 1210	設計図書による。	当初及び土質の変化時		エ センターで行う
			外観検査(ストリップ、鋼製壁面材、コンクリート製壁面材等)	補強土壁工法各設計・施工マニュアルによる。	同左	同左		ウ
			コンクリート製壁面材のコンクリート強度	補強土壁工法各設計・施工マニュアルによる。	同左	同左		ウ
			その他	土の粒度試験	補強土壁工法各設計・施工マニュアルによる。	同左	同左	